鉱 工 業 指 数 参 考 図 表 集 (2022 年 3 月 速 報)

2022 年 4 月 28 日

経済解析室

URL : https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html

2022年3月の鉱工業指数(速報)各指数の状況

生産・出荷・在庫・在庫率指数

月次		生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指	旨数	96.5	93.2	100.7	118.4
前月比		0.3%	0.5%	-0.6%	-0.3%
指数7	水準	2021.12 96.6以来	2021.12 94.1以来	2022.1 99.2以来	2022.1 116.4以来
		I 2017. 12 105. 8 II 2018. 10 105. 6 III 2018. 3 105. 1	I 2014. 3 105. 7 II 2017. 12 105. 4 III 2014. 1, 2018. 4, 10 104. 4	①2021. 5 94. 2 ②2021. 2, 3 94. 5 ③2021. 4 94. 7	①2014. 3 89. 1 ②2013. 11 90. 8 ③2014. 1 91. 8
前月上	比の動き	2か月連続+ (2022.2~当月)	3か月ぶり+ (2021.12以来)	2か月ぶりー (2022.1以来)	3か月ぶりー (2021.12以来)
前月上	比幅	2022. 2 2.0%以来	2021.11 5.4%以来	2022.1 -0.7%以来	2021.12 -0.3%以来 (超)2021.11 -1.5%以来
		I 2021. 6 7. 2% II 2020. 7 6. 9% III 2021. 11 5. 0%	I 2020. 6 6. 9% II 2021. 11 5. 4% III 2020. 7 5. 3%	①2020. 5 -2. 4% ②2013. 11 -2. 2% ③2016. 10 -2. 0%	①2020. 6 -8. 1% ②2020. 7 -7. 6% ③2014. 3 -4. 4%
前年同月	引比(原指数)	-1.7%(107.1)	-2.5% (105.9)	6.6% (97.5)	9.6%(103.1)
前年同	同月比の動き	2か月ぶりー (2022.1以来)	3か月連続ー (2022.1〜当月)	7か月連続+ (2021.9~当月)	7か月連続+ (2021.9〜当月)
前年同	同月比幅	2021. 10 -4. 3%以来 ①2020. 5 -27. 0% ②2020. 6 -18. 4% ③2020. 7 -15. 9%	2021. 10 -5. 9%以来 ①2020. 5 -27. 5% ②2020. 4 -17. 0% ③2020. 7 -16. 8%	2022. 2 7. 1%以来 I 2022. 2 7. 1% II 2014. 11 7. 0% III 2022. 3 6. 6%	2020. 8 13. 9%以来 I 2020. 5 43. 5% II 2020. 4 29. 7% III 2020. 6 23. 9%

¹⁾ Ⅰ~Ⅲは2015年基準における最大値から上位3位まで、①~③は最小値から下位3位までの数値

2022年3月の鉱工業生産の基調判断

「生産は持ち直しの動きがみられる」

基調判断の推移

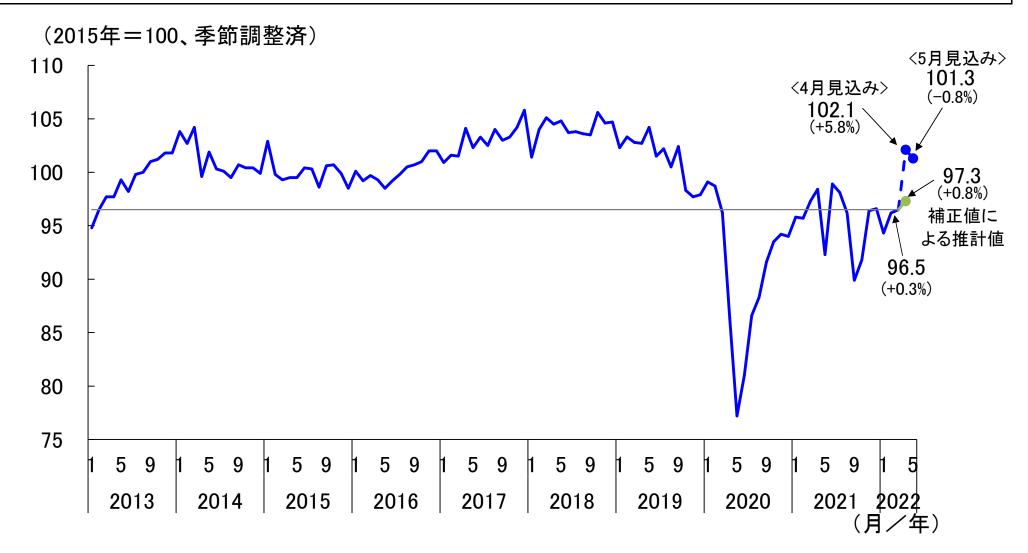
- 2018年1月~6月
- 2018年7月~9月
- 2018年10月~12月
- ・2019年1月、2月
- ・2019年3月
- 2019年4月~7月

- ・2020年1月、2月
- 2020年3月
- 2020年4月、5月
- 2020年6月
- 2020年7月

- (↓)「生産は緩やかな持ち直し」
- (↓)「生産は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる」
- (↑) 「牛産は緩やかな持ち直し」
- (↓)「生産は足踏みをしている」
- (↓)「生産はこのところ弱含み」
- (↑)「生産は一進一退」
- ·2019年8月、9月 (↓) 「生産はこのところ弱含み」
- ・2019年10月~12月 (→) 「生産は弱含み」
 - (↑) 「生産は一進一退ながら弱含み」
 - (↓)「生産は低下している」
 - (↓)「生産は急速に低下している」
 - (↑) 「牛産は下げ止まり、持ち直しの動き」
 - (→)「生産は持ち直しの動き」
- ・2020年8月~2021年7月 (↑) 「生産は持ち直している」
- 2021年8月~10月 (↓)「生産は足踏みをしている」
- 2021年11月~ (↑)「生産は持ち直しの動きがみられる」

鉱工業生産指数の動向と先行き

・2022年3月の鉱工業生産指数は、96.5(前月比0.3%)と2か月連続の上昇。



⁽注)鉱工業指数(IIP)とは、月々の鉱工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は、2015年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など 鉱工業全体の動きを示す代表的な指標

⁽注)補正値は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鉱工業指数の動きをより適切に把握できるように試算したもの

2022年3月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(業種別)

- 2022年3月の鉱工業生産指数は、96.5(前月比0.3%)と2か月連続の上昇。

		業種・品目名	前月比	寄与度
	1位の業種	生産用機械工業	3. 3%	0. 29%pt
	品目	半導体製造装置	14. 7%	0.35%pt
	AH 11	繊維機械	69. 7%	0.23%pt
鉱工業生産を上昇方向へ	2位の業種	化学工業(除、無機・有機化学工業・医薬品)	5. 4%	0. 21%pt
引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい	品目	合成洗剤	16. 7%	0.08%pt
2品目	пп	仕上用化粧品	11. 6%	0.03%pt
	3位の業種	輸送機械工業(除. 自動車工業)	8. 4%	0. 15%pt
	品目	航空機用機体部品	84. 4%	0.12%pt
		航空機用発動機部品	32. 9%	0.10%pt
	1位の業種	自動車工業	-6.0%	−0.87%pt
	品目	普通乗用車	-6 . 5%	-0.33%pt
<u> </u>	AH CI	小型乗用車	—16.4%	−0.17%pt
鉱工業生産を低下方向へ	2位の業種	無機・有機化学工業	-4 . 2 %	−0.19%pt
引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい	品目	エチレン	—14 . 6%	-0.05%pt
2品目	пп	合成ゴム	—13 . 7%	-0.04%pt
	3位の業種	窯業・土石製品工業	-2 . 8%	−0.09%pt
	品目	板ガラス	-30.2%	-0.04%pt
	HP E1	セメント	—2.4 %	−0.01%pt

寄与度:生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きが横ばいの場合でも 季節調整の関係で両者が一致しないことがある

2022年3月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(全体・財別)

<全体>

		品目名	前月比	寄与度
然工类生产4、▶■ 十户	1位	半導体製造装置	14. 7%	0.35%pt
鉱工業生産を <mark>上昇</mark> 方向 に引っ張った3品目	2位	繊維機械	69. 7%	0. 23%pt
	3位	モス型半導体集積回路(メモリ)	9. 4%	0.15%pt
就工类生产专机工工 中	1位	普通乗用車	-6 . 5%	−0 . 33%pt
鉱工業生産を <mark>低下</mark> 方向 に引っ張った3品目	2位	一般用蒸気タービン	—91. 2 %	−0.32%pt
	3位	小型乗用車	—16.4 %	−0.17%pt

<財別=用途別>

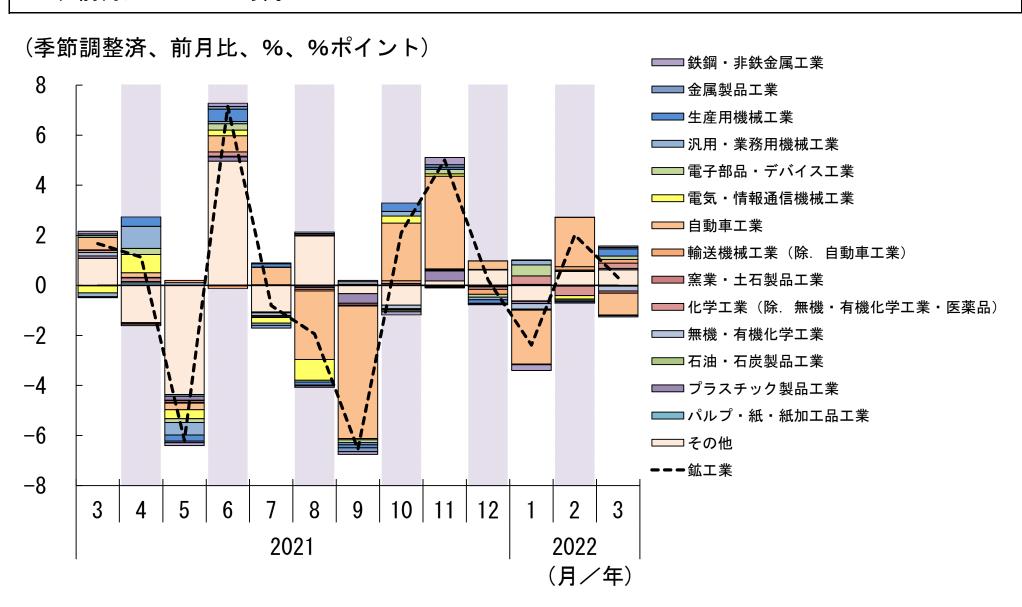
	解説	品目名	前月比	寄与度
	鉄骨やセメントなど	建設財	1. 6%	0. 09%pt
建設財	建設投資に向けられる製品	ガス温水給湯暖房機・風呂がま	41. 7%	0.07%pt
	建成 及員に同じ ろれる 表面	プラスチック製建材	8. 7%	0.02%pt
	食料品や衣料品など	非耐久消費財	0. 4%	0. 07%pt
非耐久消費財	家計で購入される製品	合成洗剤	16. 7%	0.08%pt
		仕上用化粧品	11.6%	0.03%pt
資本財	 クレーンや金属工作機械など	資本財 (除. 輸送機械)	0.0%	0.00%pt
	一つで金属工作機械など一段備投資に向けられる製品	半導体製造装置	14. 7%	0.35%pt
(除. 輸送機械)	以間及其に同じられる表面	一般用蒸気タービン	-91 . 2%	−0.32%pt
		生産財	−0 . 1%	−0. 05%pt
│ 生産財	原材料として投入される製品	自動車用エンジン	-6 . 9%	-0.10%pt
		リチウムイオン蓄電池	—10 . 1%	−0.06%pt
	テレビや電気冷蔵庫など	耐久消費財	-5.4%	−0. 42%pt
耐久消費財	家計で購入される製品	普通乗用車	- 6.5%	−0.28%pt
		小型乗用車	—16.4 %	−0.17%pt

※品目のうち、秘匿の関係で寄与度を表記できない品目は、上記表の記載から外している (記載から外す品目例)鉄道車両、製材等

寄与度:生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きが横ばいの場合でも 季節調整の関係で両者が一致しないことがある

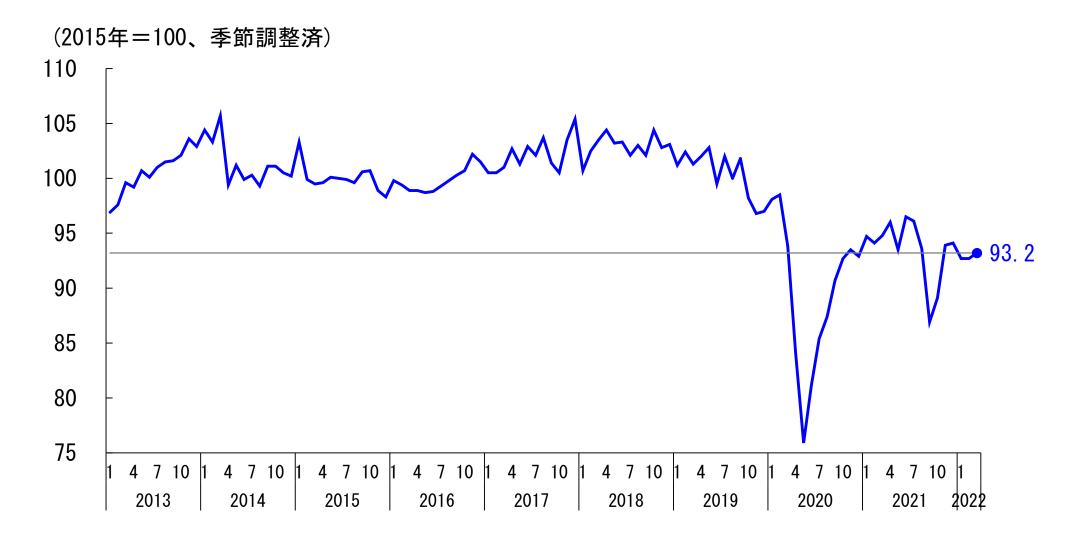
鉱工業生産前月比 業種別の影響度合い

・2022年3月の生産指数は、自動車工業などが低下したものの、生産用機械工業などが上昇したため、前月比0.3%の上昇。



鉱工業出荷指数の動向

・2022年3月の鉱工業出荷指数は、93.2(前月比0.5%)と3か月ぶりの上昇。



2022年3月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目(業種別)

- 2022年3月の鉱工業出荷指数は、93.2(前月比0.5%)と3か月ぶりの上昇。

		業種・品目名	前月比	寄与度
	1位の業種	生産用機械工業	5. 1%	0. 40%pt
	品目	ショベル系掘削機械	12. 8%	0. 19%pt
<u> </u>	AR CI	繊維機械	69. 5%	0.18%pt
鉱工業出荷を <mark>上昇</mark> 方向へ 引っ張った3業種の中で	2位の業種	輸送機械工業(除.自動車工業)	26. 4%	0.39%pt
上昇への影響度が大きい	品目	航空機用発動機部品	34. 9%	0. 11%pt
2品目	пп	航空機用機体部品	84. 2%	0.11%pt
	3位の業種	化学工業(除. 無機・有機化学工業・医薬品)	5. 7%	0.15%pt
	品目	乳液·化粧水類	13. 4%	0. 07%pt
	пп	仕上用化粧品	27. 4%	0.05%pt
	1位の業種	自動車工業	—3.5%	−0. 53%pt
	品目	普通乗用車	—3.2%	-0.19%pt
At - 44 11 + 4 15 - 4 4	HA CI	小型乗用車	—11.0%	-0.12%pt
鉱工業出荷を <mark>低下</mark> 方向へ 引っ張った3業種の中で	2位の業種	無機・有機化学工業	— 1. 4 %	-0.07%pt
51つ振つに3条性の中で 低下への影響度が大きい	品目	プロピレン	—14.4 %	-0.06%pt
2品目	ΠП	エチレン	— 7. 2%	-0.04%pt
	3位の業種	その他工業	— 1. 2 %	−0.06%pt
	品目	平版印刷(オフセット印刷)	—1.4 %	-0.01%pt
	пп П	乗用車用タイヤ	-3.4 %	−0.01%pt

[※]品目のうち、秘匿の関係で寄与度を表記できない品目は、上記表の記載から外している (記載から外す品目例)鉄道車両、製材等

寄与度:出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きが横ばいの場合でも 季節調整の関係で両者が一致しないことがある

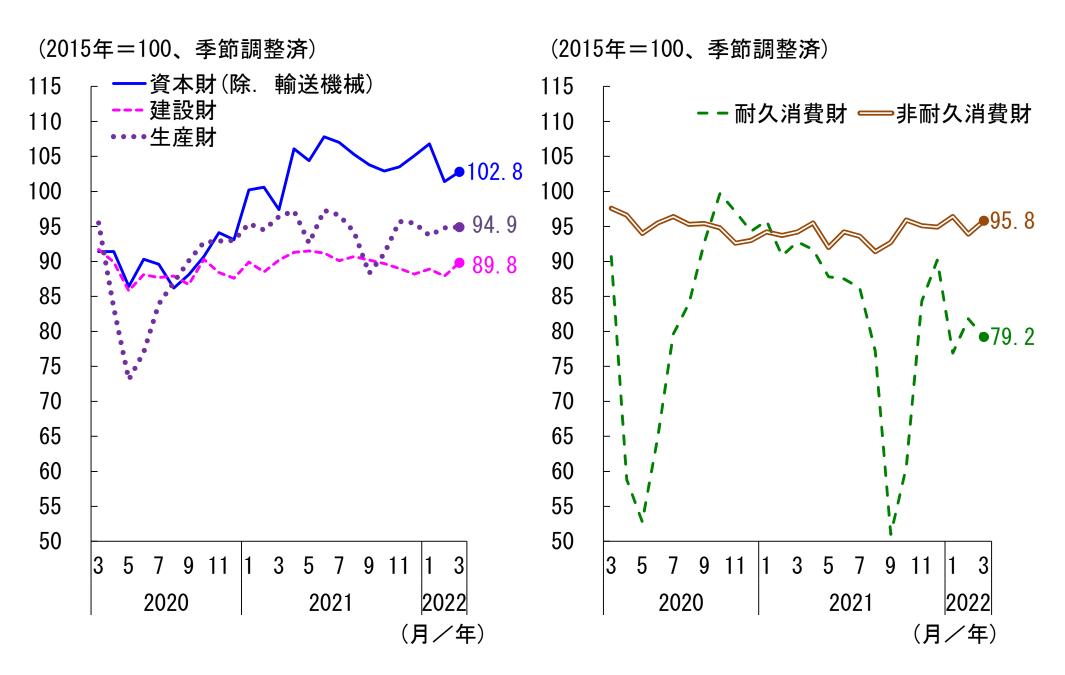
2022年3月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目(財別)

	解説	品目名	前月比	寄与度
		非耐久消費財	2. 0%	0. 33%pt
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	乳液・化粧水類	13. 4%	0.07%pt
		仕上用化粧品	27. 4%	0.05%pt
% - □ L		資本財(除. 輸送機械)	1. 4%	0. 17%pt
│ 資本財 │ (除.輸送機械)	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	ショベル系掘削機械	12. 8%	0.19%pt
(P): TDJ &C 198/198/		繊維機械	69. 5%	0.18%pt
		建設財	2. 2%	0. 11%pt
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	ガス温水給湯暖房機・風呂がま	43. 2%	0.08%pt
		普通鋼小形棒鋼	8.6%	0.02%pt
		生産財	0. 1%	0. 06%pt
生産財	原材料として投入される製品	モス型半導体集積回路(メモリ)	15. 1%	0.15%pt
		リチウムイオン蓄電池	25. 1%	0.14%pt
_	A. =	耐久消費財	—3.2%	-0. 28%pt
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	普通乗用車	—3. 2%	−0.16%pt
		小型乗用車	—11.0 %	−0.12%pt

[※]品目のうち、秘匿の関係で寄与度を表記できない品目は、上記表の記載から外している (記載から外す品目例)鉄道車両、製材等

寄与度:出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。上昇品目と低下品目の合計は、全体の動きが横ばいの場合でも 季節調整の関係で両者が一致しないことがある

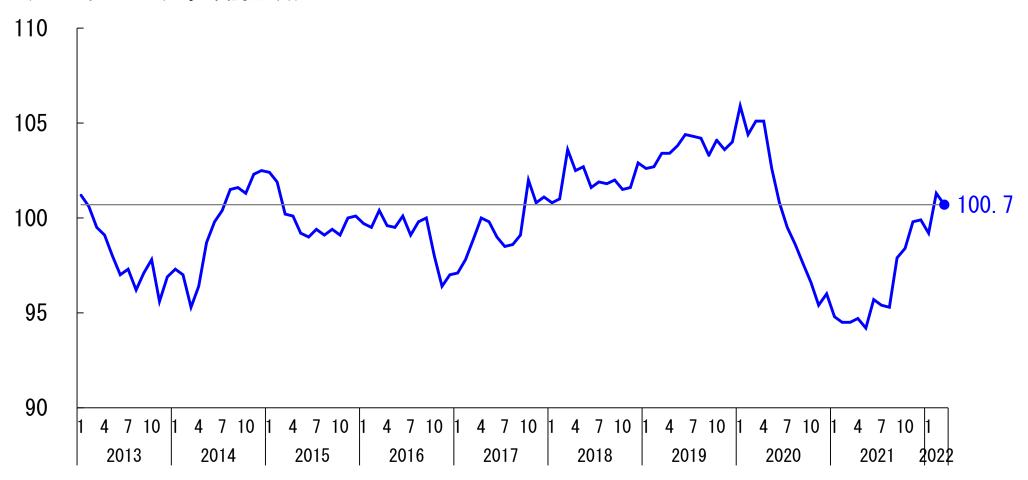
財別出荷指数の動向



鉱工業在庫指数の動向

・2022年3月の鉱工業在庫指数は、100.7(前月比-0.6%)と2か月ぶりの低下。

(2015年=100、季節調整済)



(月/年)

2022年3月の鉱工業在庫指数を大きく動かした品目(業種別)

・2022年3月の鉱工業在庫指数は、100.7(前月比-0.6%)と2か月ぶりの低下。

		業種・品目名	前月比	寄与度
	1位の業種	石油・石炭製品工業	—7 . 1%	−0. 36%pt
	品目	ガソリン	—13. 8%	−0.17%pt
	AH CI	灯油	—19.9 %	-0.13%pt
鉱工業在庫を <mark>低下</mark> 方向へ 引っ張った3業種の中で	2位の業種	無機・有機化学工業	—2.4 %	−0. 25%pt
低下への影響度が大きい	品目	ポリエチレン	— 8. 4%	−0.12%pt
2品目	ΠП	合成ゴム	-4 . 1%	−0.09%pt
	3位の業種	自動車工業	—3 . 6%	−0. 22%pt
	· ····· 品目	普通乗用車	-9 . 8%	-0.32%pt
	ΠП	小型バス	—22 . 0%	−0.03%pt
	1位の業種	鉄鋼・非鉄金属工業	2. 7%	0. 48%pt
	品目	電気銅	22. 4%	0.11%pt
\\\-\\\\-\\\\\-\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	HI C	鋼半製品	1. 4%	0.08%pt
鉱工業在庫を <mark>上昇</mark> 方向へ 引っ張った3業種の中で	2位の業種	電子部品・デバイス工業	10. 0%	0. 35%pt
上昇への影響度が大きい	品目	アクティブ型液晶パネル(大型)	35. 4%	0.22%pt
2品目	ΠП	アクティブ型液晶パネル(中・小型)	27. 2%	0.11%pt
	3位の業種	電気・情報通信機械工業	4. 4%	0. 29%pt
	品目	リチウムイオン蓄電池	7. 3%	0.09%pt
	HH F1	鉛蓄電池	12. 4%	0.07%pt

寄与度:在庫全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きが横ばいの場合でも 季節調整の関係で両者が一致しないことがある

鉱工業在庫率指数の動向

・2022年3月の鉱工業在庫率指数は、118.4(前月比-0.3%)と3か月ぶりの低下。

4 7 10

2016

80

2013

2014

2015

(2015年=100、季節調整済)
160
150
140
130
120
110
100
90

4 7 10 1

2017

4 7 10 1

2018

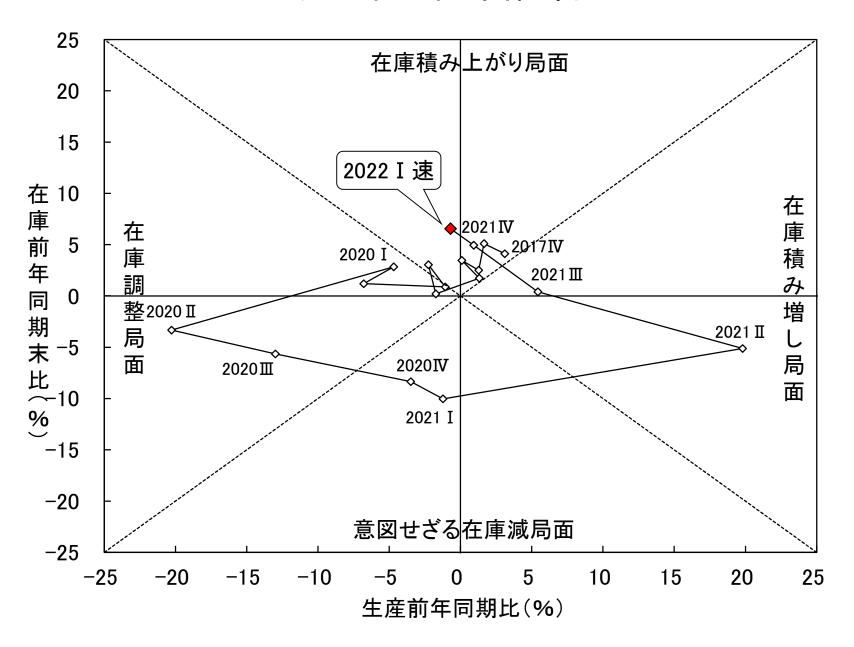
4 7 10 1

2020

2019

2021

鉱工業の在庫循環図



製造工業生産予測指数 時系列

〈製造工業: Manufacturing〉 index, 2015 = 100

			季節調整済指	数		前月比		実現率	予測修正率		原指数		前	年同月比		(参考)原	指数による	
			0 !! A !! !!	, ,		%Change		Realization	Amendmen	•				%Change		実現率	予測修正率	V I
	年	月	Seasonally Adjusted 1	Index	Fro	om Previous Month		Ratio	t Ratio	Ur	iginal Index	(Fro	m Previous Year		Realization Ratio	Amendment Ratio	Year and Month
			前月実績 当月見込み・翌	月見込み	前月実績		翌月見込み			前月実績	当月見込み	翌月見込み	前月実績	当月見込み 翌	月見込み			
			Last Month This Month Ne	ext Month	Last Month	This Month	Next Month			Last Month	This Month	Next Month	Last Month	This Month N	ext Month			
2021	年	2月調査	98.7 101.5	97.8	2.2	2.8	▲ 3.6	▲ 3.7	▲ 1.2	93.6	99.0	111.0	▲ 3.5	2.7	5.0	▲ 3.7	▲ 1.1	Feb. 2021
		3月調査	98.2 99.0	106.0	▲ 0.5	0.8	7.1	▲ 3.3	1.2	95.7	112.3	104.1	▲ 0.7	6.2	25.7	▲ 3.3	1.2	Mar.
		4月調査	99.2 105.5	102.2	1.0	6.4	▲ 3.1	0.2	▲ 0.5	112.6	103.6	94.0	6.5	25.1	34.9	0.3	▲ 0.5	Apr.
		5月調査	101.3 101.0	105.7	2.1	▲ 0.3	4.7	4 .0	▲ 1.2	99.5	92.9	107.4	20.2	33.3	32.3	4 .0	▲ 1.2	May
		6月調査	96.1 104.9	103.2	▲ 5.1	9.2	▲ 1.6	▲ 4.9	▲ 0.8	88.4	106.6	105.8	26.8	31.3	17.4	▲ 4.8	▲ 0.7	Jun.
		7月調査	102.9 102.1	104.6	7.1	▲ 0.8	2.4	▲ 1.9	▲ 1.1	104.6	104.6	96.0	28.8	16.1	18.7	▲ 1.9	▲ 1.1	Jul.
		8月調査	99.0 103.5	104.4	▲ 3.8	4.5	0.9	▲ 3.0	▲ 1.1	101.5	95.0	108.5	12.7	17.4	11.9	▲ 3.0	▲ 1.0	Aug.
		9月調査	97.9 97.9	105.4	▲ 1.1	0.0	7.7	▲ 5.4	▲ 6.2	89.9	101.7	104.6	11.1	4.8	7.3	▲ 5.4	▲ 6.3	•
		10月調査	94.3 101.1	105.6	▲ 3.7	7.2	4.5	▲ 3.7	▲ 4.1	98.0	100.3	108.0	1.0	2.9	10.5	▲ 3.6	▲ 4.1	Oct.
		11月調査	95.5 102.8	105.2	1.3	7.6	2.3	▲ 5.5		94.7	105.1	108.7	▲ 2.9	7.6	8.8	▲ 5.6	▲ 2.7	Nov.
		12月調査	: :	107.7	5.4	1.7	5.2	▲ 2.0	▲ 2.7	103.0	105.9	102.7	5.4	6.0	9.7	▲ 2.0		
2022	年	1月調査	99.7 105.1	106.4	▲ 1.0	5.4	1.2	▲ 2.6		103.1	100.2	103.7	3.2	7.1	8.4	▲ 2.6		
		2月調査	97.9 102.6	103.7	▲ 1.8	4.8	1.1	▲ 6.9	▲ 3.6	93.4	100.0	117.0	-	4.5	3.9	▲ 6.8	▲ 3.6	
		3月調査	97.8 102.3	110.6	▲ 0.1	4.6	8.1	▲ 4.7		:	115.5	106.8	▲ 0.4	2.6	7.3	▲ 4.7	▲ 1.3	
		4月調査	100.9 106.8	105.9	3.2	5.8	▲ 0.8		▲ 3.4	113.9	103.2	99.1	1.2	3.7	12.1	<u> </u>		

製造工業生産予測指数(当月、翌月の生産伸び率)

	3月調査 (前回)		4月調査 (今回)	4月調査 補正値
4月見込み	8.1%	ightharpoonup	5.8%	0.8% (-1.3%~2.9%)
5月見込み	_		-0.8%	_

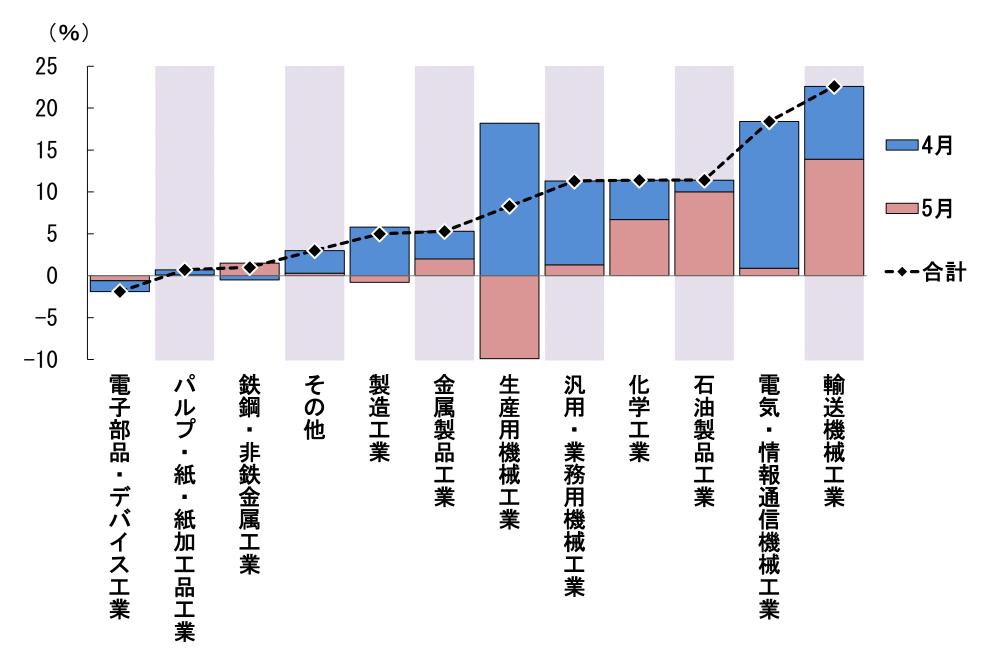
⁽注) 2022年3月調査(前回)については年間補正によりデータが更新されている

(参考) 前回調査の結果

	3月予測調査	3月補正値	実際の結果 鉱工業生産指数
3月前月比	4.6%	1.1% (-0.9%~3.1%)	0.3%

(注) 2022年3月調査(前回)については年間補正によりデータが更新されている

2か月の生産予測伸び率(製造工業生産予測指数)



2022年4月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種	計画前月比
生産用機械工業	18. 2%
電気・情報通信機械工業	17. 5%
輸送機械工業	8. 7%
汎用・業務用機械工業	10.0%
化学工業	4. 7%
その他	2. 7%
金属製品工業	3. 3%

上昇寄与業種	計画前月比
石油製品工業	1. 4%
パルプ・紙・紙加工品工業	0.6%
低下寄与業種	計画前月比
低下寄与業種 鉄鋼・非鉄金属工業	計画前月比 -0.5%

(注) 低下寄与業種の並びは、一番下が最も低下寄与(影響度)が大きい

2022年5月生産計画の寄与順位表

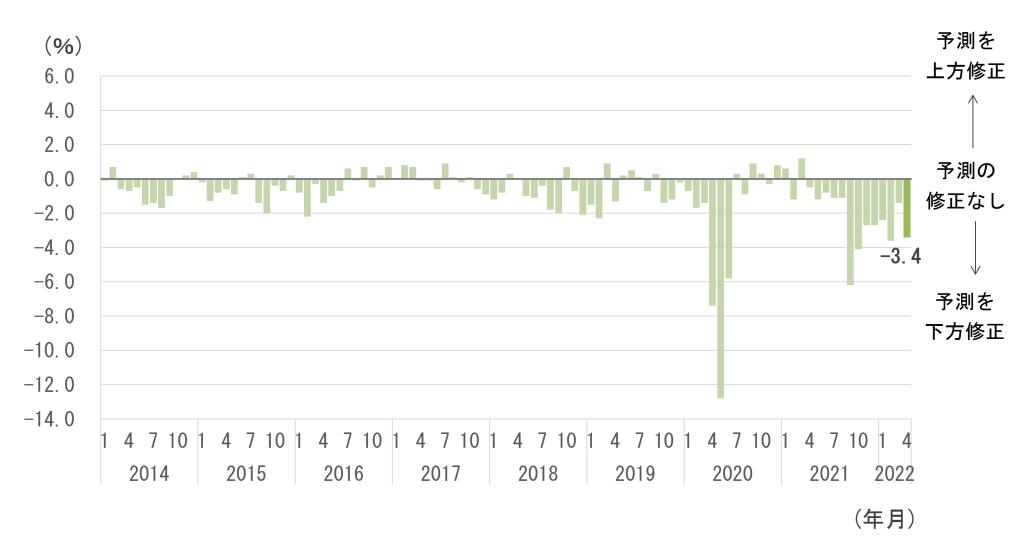
上昇寄与業種	計画前月比
輸送機械工業	13. 9%
化学工業	6. 7%
汎用・業務用機械工業	1. 3%
石油製品工業	10.0%
電気・情報通信機械工業	0.9%
金属製品工業	2. 0%
鉄鋼·非鉄金属工業	1. 5%

上昇寄与業種	計画前月比	
その他	0.3%	
パルプ・紙・紙加工品工業	0.1%	
化工学上类 转	크교육 P 나	
低下寄与業種	計画前月比	
電子部品・デバイス工業	一0.6%	

(注) 低下寄与業種の並びは、一番下が最も低下寄与(影響度)が大きい

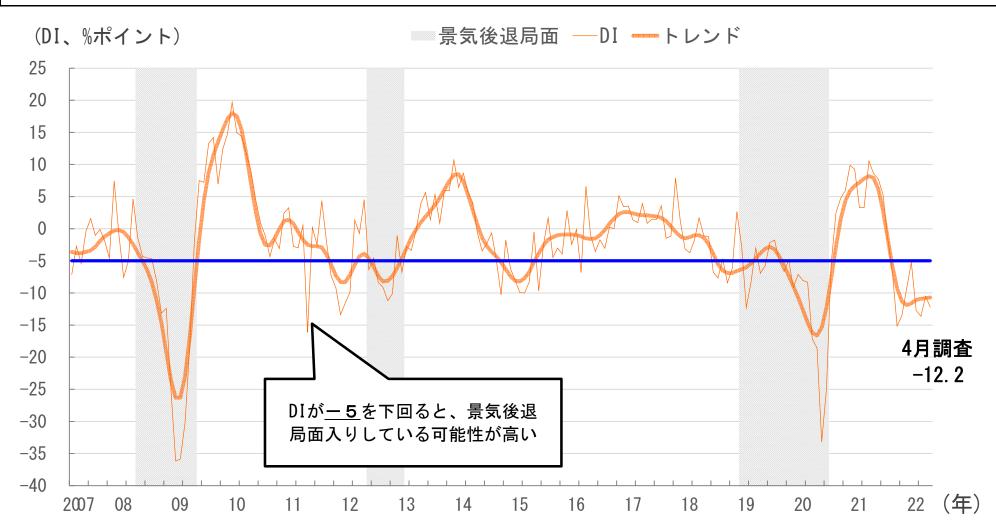
予測修正率の推移

- ・当月の生産計画が前回の生産計画からどの程度修正されたかを示したものが予測修正率となる。
- ・今回の調査では、予測修正率は-3.4%と低下になり、生産計画は13か月連続の下方修正となった。



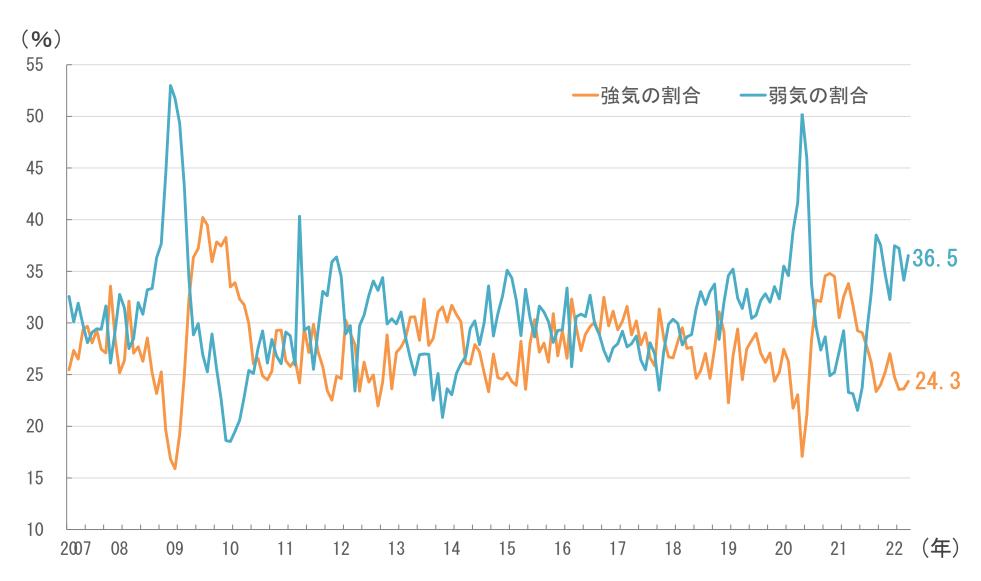
企業の生産活動に対する姿勢(生産活動マインド指標(DI))

- ・生産計画を上方修正している企業の割合から下方修正している企業の割合を差し引くことで企業の生産活動マインドを指標(DI)化。
- ・DIのトレンドが-5を下回ると景気後退局面入りの可能性が高い。
- ·4月調査結果のDIは、-12.2(前月の-10.5から低下)。トレンドは-10.7と-5を下回る水準。



強気と弱気の比率の変化

・4月調査結果のDIの内訳をみると、強気が24.3%、弱気が36.5%となっている。3月と比べて強気の割合は増加し、弱気の割合は増加した。



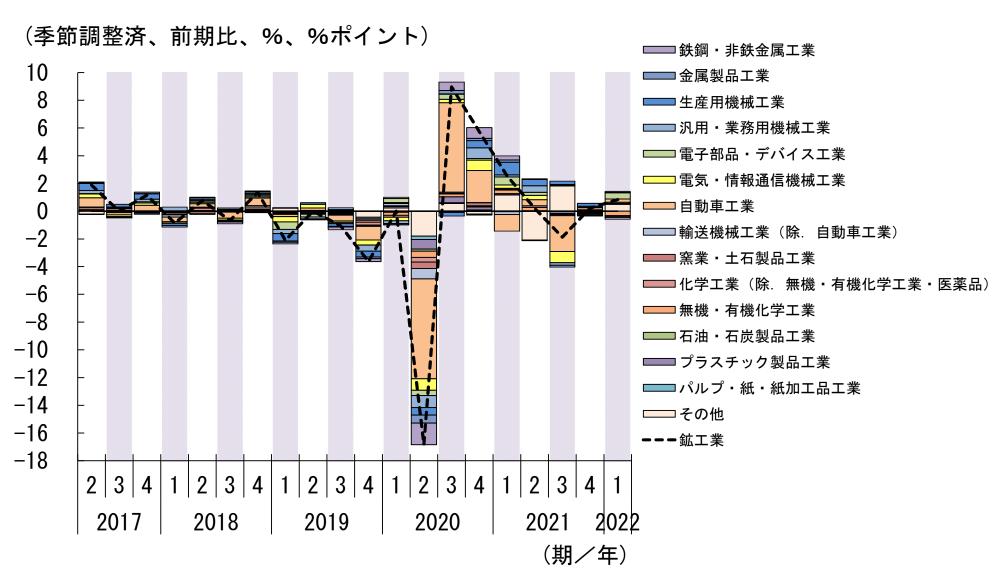
2022年1~3月期(速報)各指数の状況 生産・出荷・在庫・在庫率指数

四	半期	生産	出荷	在庫	在庫率
	調済指数 期比	95.7 0.8%	92.9 0.5%	100.7 0.8%	117.8 1.9%
	指数水準	2021m 96.5以来	2021 Ⅱ 95.3以来	2020Ⅱ 100.8以来	2020m 124.0以来
		I 2018IV 105.0 II 2017IV 104.4 III 2018 II 104.3	I 2014 I 104. 5 II 2018 II 103. 6 III 2018 IV 103. 4	I 2020 I 105.1 II 2019 II 104.4 III 2019 IV 104.0	I 2020 II 142. 1 II 2020 II 124. 0 III 2022 I 117. 8
	前期比の動き	2期連続+ (2021Ⅳ~当期)	2期連続+ (2021Ⅳ~当期)	4期連続+ (2021 Ⅱ ~当期)	3期連続+ (2021Ⅲ~当期)
	前期比幅	2021 I 2.6%以来	2021 Ⅱ 0.8%以来	2021Ⅳ 2.0%以来	2021m 4.7%以来
		I 2020Ш 9.0% II 2020IV 5.7% III 2021 I 2.6%	I 2020Ш 9. 2% II 2020IV 5. 9% III 2013 II 2. 0%	I 2014 П 4. 7% П 2018 I 2. 5% Ш 2021 Ш 2. 3%	I 2020 II 21. 3% II 2014 II 6. 8% III 2019 IV 4. 8%
前	年同期比(原指数)	-0.6% (95.8)	-1.8%(93.8)	6.6% (97.5)	7.3% (118.0)
	前年同期比の動き	4期ぶりー (2021 I 以来)	4期ぶりー (2021 I 以来)	3期連続+ (2021Ⅲ~当期)	2期連続+ (2021Ⅳ~当期)
	前年同期比幅	2021 I −1.2%以来	2020Ⅳ -3.5%以来	2015年基準最高水準	2020皿 13.4%以来
		①2020 II -20.3% ②2020 III -13.0% ③2019 IV -6.8%	①2020 II -20.3% ②2020 III -13.5% ③2019 IV -6.5%	I 2022 I 6. 6% II 2014IV 5. 9% III 2015 I 5. 2%	I 2020 II 32.5% II 2020 II 13.4% III 2020 I 10.8%

¹⁾ Ⅰ~Ⅲは2015年基準における最大値から上位3位まで、①~③は最小値から下位3位までの数値

鉱工業生産指数前期比業種別の影響度合い

・2022年1-3月期の生産指数は、無機・有機化学工業などが低下したものの、電子部品・デバイス工業などが上昇したため、前期比0.8%の上昇。



2021年度(速報)各指数の状況 生産・出荷・在庫・在庫率指数

年度	生産	出荷	在庫	在 庫 率
原指数	95.5	93.2	97.5	114.2
前年度比	5.8%	4.5%	6.6%	-7.1%
指数水準	I 2019 99.9以来	I 2019 98.9以来	I 2019 101.7以来	2019 112.5以来
	I 2018 103.8	I 2018 102.6	I 2019 101.7	①2013 93.4
	II 2017 103.5	II 2017 102.4	II 2018 98.9	②2014 99.3
	III 2013 101.1	III 2013 102.3	III 2017 98.7	③2015 100.2
前年度比の動き	3年度ぶり+	3年度ぶり+	2年度ぶり+	8年度ぶり-
	(2018以来)	(2018以来)	(2019以来)	(2013以来)
前年度比幅	2015年基準最高水準	2015年基準最高水準	2015年基準最高水準	2015年基準最低水準
	I 2021 5.8%	I 2021 4.5%	I 2021 6.6%	①2021 -7.1%
	II 2017 2.9%	II 2017 2.2%	II 2014 5.2%	-
	III 2016 0.8%	III 2016 0.6%	III 2017 5.1%	-

¹⁾ Ⅰ~Ⅲは2015年基準における最大値から上位3位まで、①~③は最小値から下位3位までの数値

鉱工業生産指数前年度比 業種別の影響度合い

・2021年度の生産指数は、輸送機械工業(除. 自動車工業)などが低下したものの、生産用機械工業などが上昇したため、前年度比5.8%の上昇。

